



診療情報管理室室長  
診療情報管理士

持田 和子



カルテ（診療情報）って誰のものだと思いますか？

従来は、診療活動を行う“医師のもの”との考えが強かったのですが、近頃では、自分のことが書いてあるから“私のもの”と考える患者さんも多くなりました。

医療行為そのものも、情報の扱い方や患者さんへの対応も、説明をうけて同意（了解）を求められることが多くなったと感じている方は多いと思います。

紙のカルテから電子カルテへと記録の方法も変化し、診療情報は目に見えないデータとなって、紙のカルテより容易に移動させることができます。

銀行預金を想像ください。お金は個人のものですが、預かる（管理する）のは銀行です。管理されたお金は、キャッシュカードを用いて、引き出したり、決済ができたりしますね。

診療情報は、このお金に似ています。患者さんのものですが、病院が管理することによって有効に活用されます。医師が患者さんの診療に用いるだけでなく、医療スタッフが共有することによって円滑なチーム医療を行うことができますし、必要に応じて他院へも最新の情報を提供することができます。

また、診療情報は、守秘性の高い個人情報でもありますから、散逸や漏洩を防ぐことも情報を管理する病院の役目です。

患者さん・病院、そして社会の願いである“安全で質の高い医療”の実現のために、患者さんの情報を預かって管理するセクションの一つが診療情報管理室です。

ちょっと

## よみみち

オリンピックシーズン到来！自分も挑戦したいと思う方も多しはず。ということで、今回は「中川スポーツ」さんに寄り道です。衣笠病院と同じ昭和



22年創業で、店主は代々スポーツマン。現在の店主は2代目。昔からスポーツ用品販売だけでなく、バスケットボール協会の事務局も行っており、市内の学校からは「先生が変わっても、事務局は変わらないで欲しい」と絶大な信頼を受けています。

扱っているアイテムは4000種以上。中にはレアな商品や記念品、携帯ストラップまであり、店頭で見られるのはその中の1/3程度。残りは？というと3代目である息子さんがインターネットで紹介・販売していて、顧客は北海道から沖縄まで全国に至る。「ネットを見て、長野からわざわざ買いに

## 中川スポーツ

来られた方もいました」と明るく語って下さった店主の奥様は、衣笠病院でお生まれになり、お子様3人も衣笠病院でご出産されたそうです。

時代が変わり、ボールやユニフォームの材質もだいぶ変わったと初代店主がその変遷を教えて下さいましたが、砂利道を足袋で駆け抜けたという初代店主だからこそ、時代の変遷に取り残されずに、代々バトンを繋いで来られたのでしょう。スポーツ用品をそろえる際は、中川スポーツへ寄り道してみませんか？



### 中川スポーツ

横須賀市衣笠栄町1-70 Tel: 046-851-2945  
定休日: なし 営業時間: 10:30~20:00



## 編集後記

「カモメになったペンギン」という絵本があります。268羽のペンギンが暮らす大きな氷山が溶け始め、一族滅亡！?の未曾有の危機に立ち向かうために5羽のペンギンが立ち上がります。仲間に危機的状況を伝え氷山からの引越し計画を進めますが、変化を嫌い、現状に甘んじる多くのペンギンたちはなかなか真剣に考えようとしてくれません。

古い考え、不安や固定観念、水面下で進む妨害などあらゆる困難が改革ペンギンチームの前に立ちはだかります。それでも5羽のペンギンは「みんなの意識変革」のために根気強く周囲に動きかけてペンギンたちの心を動かしていきます。そしてついに、カモメのように常に最適な環境を求めて移動する生活スタイルへの変革を実現して行くという物語です。

もちろん子供が読んでわかるように可愛いペンギンのイラストつきで書かれていますが、内容はお察しの通り「組織変革論」です。著者はJ.コッター、「リーダーシップ論」の権威です。心に響く1冊でした。(1)

### 「衣笠」No.444

2012年6月1日発行

発行人 室谷千英

発行 社会福祉法人日本医療伝道会  
〒238-8588 横須賀市小矢部2-23-1  
TEL. 046-852-1182 (代表)  
郵便振替口座 00220-2-13963

編集 社会福祉法人日本医療伝道会  
広報委員会

印刷 (株)ポートサイド印刷

# 衣笠

第444号  
June.2012  
2012年6月1日発行



わたしの兄弟である  
この最も小さい者の一人にしたのは  
わたしにしてくれたことなのである  
マタイによる福音書 25章40節



社会福祉法人  
日本医療伝道会  
Japan Medical Mission  
<http://www.kinugasa.or.jp>



## 「地域社会に密着して」

社会福祉法人 日本医療伝道会 評議員 井出智三

大切なことはどれだけたくさんのかををしたかではなく、

どれだけ心をこめたかです。

マザー・テレサ

衣笠病院との関わりで言うと、先代の妹が看護師として働いていたことがありました。昭和30年代だと思えます。あの大火事の時も勤務をしており、その当時の事は私の記憶にも残っています。その後、横須賀西ロータリークラブの先輩、市川潔様、松山恭一様等のご推薦をいただいて、衣笠病院グループ福祉医療後援会の一員とならせてもらいました。今日まで色々と協力させてもらい、また衣笠病院にも衣笠商店街の活動を助けていただいております。感謝します。

今、衣笠病院に望むこととして、産婦人科での出産ができる態勢が整うことがあります。なかなか難しいのだろうと思いますが、過去には沢山私達の子どもの世代が衣笠病院で誕生していますので、願いがかなうと良いと思っています。

この地域にも高齢で一人暮らしの方が増えてきています。3月には、82歳の方のポストに3日間、新聞が入ったままになっていることに当井出新聞店の従業員が気づき、命を救うことにつながったことがありました（県警横須賀署から感謝状をいただきました）。私達もますます、衣笠病院と共に、地域社会のお役に立てる新聞販売店を目指して行きたいと考えています。

これからも、地元で密着した病院として、職員、先生方のさらなる活躍を期待しています。

### プロフィール

神奈川県立横須賀高校卒  
上智大学を中退し、  
昭和37年「井出新聞店」(衣笠大通り商店街)を引き継ぐ  
現在は会長職

- 2 衣笠ホスピス公開セミナー  
衣笠病院創立65周年記念講演会  
実行委員長 衣笠病院副院長 伊藤義彦  
日野原重明先生講演要旨
- 3 ワークショップ報告
- 4 内視鏡室移転・センター化、  
横須賀市胃がん検診の変更について  
衣笠病院診療部長 岩田啓吾  
ボランティア感謝会報告  
衣笠ろうけん介護主任 前田恭子
- 5 近隣教会のご紹介  
日本キリスト教団 野比教会  
今月の聖句  
日本キリスト教団 野比教会 牧師 高 和熙
- 6 互いに学び合い高め合う職員研修を  
衣笠病院グループ研修委員長 大坪まゆ美  
秋山みつえ看護部長・神奈川県看護賞受賞
- 7 新任ドクター紹介  
定年を迎えた皆様  
行事カレンダー
- 8 ぶどうの木  
診療情報管理室室長 診療情報管理士 持田和子  
《ちょっとよりみち》中川スポーツ



衣笠ろうけん運動会 5月15日

# 当院内視鏡室移転・センター化、横須賀市胃がん検診の変更について

衣笠病院診療部長 岩田 啓吾

5月21日より内視鏡室を現在の1階から2階へ移転、2ブースでの検査体制をとりました。移転の最大の目的は検査件数の増加にあります。当院で強化できる診療対象としては以前より消化器疾患であると判断していました。特に消化管疾患の拾い上げをすることにより外科手術件数増加、併存疾患のフォローにて病院各科全体の患者数の増加が見込めます。また、内視鏡センターとして検査外の機能をさらに向上させることにより予約、前処置など外来、病棟の負担をある程度軽減できるとも考えています。



5月から横須賀市胃がん検診制度変更にもない内視鏡検査のニーズは増加します。まず胃がんのスクリーニングは、レントゲン画像検査に変わり血液検査によるペプシノーゲン検査およびピロリ菌検査で行われます。ペプシノーゲン検査は、がんの発生母地となる胃粘膜萎縮のひろがりなどを推定します。

ピロリ菌は、胃の強い酸のなかでも棲息できる菌で胃十二指腸潰瘍や胃がんの発生に関与するとされています。これら

の陽性、陰性を総合判定しA～D群に振り分け胃がん発生リスク判定をします。

## 【判定基準】

総合判定 (ペプシノーゲン： ピロリ菌)	発生リスク	胃がん発生数	判定結果
A群 陰性：陰性	非常に少ない	ほぼ0	5年後に検診再受診
B群 陰性：陽性	やや高い	千人に1人	3年に1回内視鏡検査
C群 陽性：陽性	高い	400人に1人	2年に1回内視鏡検査
D群 陽性：陰性	非常に高い	80人に1人	毎年内視鏡検査

ただしこのスクリーニングは検査時点での胃がん発生のリスクであり、その時点でA群の結果でも胃X線バリウム検査で容易に診断可能な進行胃がんは存在します。

したがって、症状にもよりますがA群の場合は胃X線検査を受けるのが好ましいと考えています。今後、新たな検診結果を長期的に評価することで、より効果的な検診方法が構築されるでしょう。

初診の患者さんはもちろん、通院患者さん、健康管理センターの検診受診者、近隣診療所からの依頼に柔軟に対応し地域医療に貢献できればと考えています。

## ボランティア感謝会報告

衣笠ろうけん介護主任 前田 恭子

3月24日(土)、毎年恒例の衣笠病院グループ「ボランティア感謝会」を開催しました。

たくさんのボランティアの方の中から、今年は88名の皆様に参加して下さり感謝申し上げます。当日は礼拝、鈴木病院院長挨拶に引き続き、第一部として秋山みつえ看護部長から「他者への心くばりを楽しむ」と題した講演がありました。医療の現場で仕事をしてきた経験の中で「どんなことでも、良い面をプラスに考えて楽しむ事が大事」だと学んできたとのこと。「わたしは自分が第一、すぐに自分のことを褒めてしまう」というユーモアを交えた話に、「自分を大切にすること」の大切さを、改めて考えさせられました。

第二部の茶話会では、渡邊喜代恵さんによる「ヴィオール」という古楽器の演奏で始まりました。繊細でやわらかな音色に特徴があり、心が静かになっていくのが感じられました。

飲み物とお菓子を召し上がりながら、日頃一緒に活動して



いる方同士も、久しぶりに再会した方同士も和やかに会話されていました。

今年のお菓子の中には、東日本大震災の復興支援のためにと購入した東北のお菓子がありましたが、皆さんのお口に入りましたでしょうか？

日頃から「少しでもお役に立つことがあれば…私に出来ることがあるかしら？」と、たくさんのボランティアの方々が衣笠病院グループ内で活動して下さっています。「ボランティアをすることで、私も楽しんでいるんですよ」とのお声を頂いて、本当に頭が下がる思いと、感謝の気持ちでいっぱいです。

「今日は楽しかったです。お土産まで頂いちゃってありがとうございます」と笑顔でお帰り頂いて、嬉しくなりました。

これからも皆様が気持ちよくボランティア活動をして頂けるよう、私達もサポートしてまいります。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



# 近隣教会のご紹介

日本キリスト教団  
野比教会

たくさんの企業の研究施設が密集する「横須賀リサーチパーク（YRP）」。それがオープンした1997年、野比教会はこの地で、横須賀小川町教会の「集会所」として歩み出しました。普通の家屋を改築した、小さな祈りの場所。地域の子もたちが通うなどして発展し、「伝道所」の時代を経て、2年前に正式に「野比教会」となりました。

高和熙牧師は韓国・ソウルのご出身。日本で日本語の勉強をされた後、神学校の受験は「賭け」のようなつもりでなされたのだとか。「受かれば日本に残れ、という神の計画だし、落ちれば帰れ、ということかなと安易に考えました(笑)」と高牧師。軍隊で鍛えられた大きな体と朗らかな笑顔で話されます。野比での働きを始めた後、神の計画を信じ、5年前に日本国籍を取得されました。

高牧師が育ったソウルの教会は7万人も会員がいる「メガ・チャーチ」だったのでそうです。その分、野比教会に赴任したときに覚えた家庭的な雰囲気への新鮮



取材当日、教会の皆さんからお茶と手作りケーキを用意して迎えていただきました。

な感動は忘れられないとか。「大きな教会で中心的な存在になるのは大変なこと。でも、小さな教会では、誰もが最初から“真ん中”だ」と考え、新しく来られる方には「どうぞ“真ん中”でいらしてください」とお声掛けなさるのだそうです。

誰もが主人公であること。毎週日曜日の礼拝後、教会の方はお茶を飲みながら、集いの慰めの力を感じておられるそうです。

(チャプレン室牧師 大野)



- 牧 師 たか かずひろ 高 和熙  
■主日礼拝 毎週日曜日 午前10:30  
■子どもの礼拝 毎週日曜日 午前9時  
■昼の祈禱会 毎週金曜日 午後1時  
その他、小グループの集いがあります  
所在地：横須賀市野比1-20-7  
TEL：046-847-3883

## 今月の聖句

日本キリスト教団  
野比教会

牧師 高 和熙

「祈りの手を上げ」

「モーセが手を上げている間、イスラエルは優勢になり、手を下ろすと、アマレクが優勢になった。モーセの手が重くなったので、モーセは石の上に座り、アロンとフルはモーセの両側に立って、彼の手を支えた。その手は、日の沈むまで、しっかりと上げられていた。」

(出エジプト17章11-12節)



私たちは予期しない場面に直面させられる時があります。このような時先ず思うのです。「なぜ」、「悪いことなんかしたことなのに」と思うのであります。教会にも多くの方が心の不安、病を持って訪れますが、この不安は牧師の私にも訪れました。昨年、我が家庭において大きな心配がありました。長男の眼球の神経が全く成長していないということでした。複雑な心境の中、病院の待合室で偶々雑誌の記事を目にしました。「ちょっとした時の気づきによって、鎖から解かれて変わることができる」という記事でした。「時が来るのを焦らずに待つ。」と書いてあったのです。待つことは忍耐を要する作業と思いながらも弱気になった私は、全ての複雑な問題が信仰によってすぐに解決することはないと思いつつ、心は揺らぎました。

今日の聖書のところにも予期しない困難に襲われたイスラエルの民が、その困難にどのように立ち向かって行ったのかが記されています。突如、アマレク人がイスラエルの民に襲いかかってくるわけです。戦う態勢には整えていないし、武器らしい武器もなかったのです。そういう危機の中で、イスラエルは、前線で祈るモーセを支える者皆が心一つにして、この危機に向かったのです。

私は、祈りの手を上げているモーセの姿を思い巡らしました。天上に目を向け、全ては神の支配の中にあることを信じ祈りました。ただ待つだけの日々でした。1月23日神様は私たちの家族に御応え下さいました。この日の検診で「左目は完治、そして右目も治りつつある。」と先生から聞いた私は病院で叫びました。自分の信仰が不安で揺らぐこともありましたが、しかし、全ては神の支えの御手が自分を支えていたことに気づいた瞬間でした。敬愛する皆様、神様の恵みに気づく瞬間まで、希望を見つめて祈って参りましょう。